

1990 年京大理 4

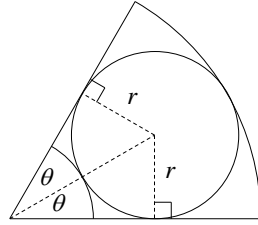
(1)

半径1, $1-2r$ の同心円の間、半径 r の円が入っているとき、

半径 r の円は、半径1の円に内接し、半径 $1-2r$ の円に外接している。 $1-2r > 0$ より $0 < r < \frac{1}{2}$ ①

右図のように、題意を満たす半径 r の円が、内接する扇形の

中心角を 2θ とすると $\sin \theta = \frac{r}{1-r}$



$2\theta \leq \frac{2\pi}{n}$ であることが条件であるから $\theta \leq \frac{\pi}{n}$

$n \geq 2$ であるから $\theta \leq \frac{\pi}{n} \leq \frac{\pi}{2}$ したがって、 $\sin \theta \leq \sin \frac{\pi}{n}$ であればよいから、 $\frac{r}{1-r} \leq \sin \frac{\pi}{n}$ であり、

$$\frac{1}{1-r} \leq 1 + \sin \frac{\pi}{n} \quad 1-r \geq \frac{1}{1 + \sin \frac{\pi}{n}} \quad r \leq 1 - \frac{1}{1 + \sin \frac{\pi}{n}} = \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 + \sin \frac{\pi}{n}} \quad \therefore 0 < r \leq \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 + \sin \frac{\pi}{n}} \quad (\text{証明終})$$

ただし、①より、 $n=2$ のとき等号は成立しない。

(2)

$n+2$ 個の円の面積の総和を $S(r)$ とすると

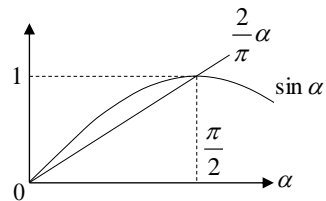
$$\begin{aligned} S(r) &= n \times \pi r^2 + \pi + \pi(1-2r)^2 = \pi(n+4)r^2 - 4\pi r + 2\pi = \pi \left\{ (n+4) \left(r^2 - \frac{4}{n+4} r \right) \right\} + 2\pi \\ &= \pi \left\{ (n+4) \left(r - \frac{2}{n+4} \right)^2 - \frac{4}{n+4} \right\} + 2\pi = \pi(n+4) \left(r - \frac{2}{n+4} \right)^2 + \frac{2n+4}{n+4} \pi \end{aligned}$$

ここで、 $\frac{2}{n+4} \leq \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 + \sin \frac{\pi}{n}}$ とすると $\frac{n+4}{2} \geq \frac{1}{\sin \frac{\pi}{n}} + 1$ $\frac{n+2}{2} \geq \frac{1}{\sin \frac{\pi}{n}}$ $(n+2) \sin \frac{\pi}{n} \geq 2$ ②

$n \geq 2$ のとき、②が成立するか調べる。 $\alpha = \frac{\pi}{n}$ とおくと $(n+2) \sin \frac{\pi}{n} = \left(\frac{\pi}{\alpha} + 2 \right) \sin \alpha$

凸性より、 $0 < \alpha \leq \frac{\pi}{2}$ において $\sin \alpha \geq \frac{2}{\pi} \alpha$ であるから

$$\left(\frac{\pi}{\alpha} + 2 \right) \sin \alpha \geq \left(\frac{\pi}{\alpha} + 2 \right) \cdot \frac{2}{\pi} \alpha = 2 + \frac{4}{\pi} \alpha > 2 \quad \therefore (n+2) \sin \frac{\pi}{n} > 2$$



したがって、②が成立し、 $\frac{2}{n+4} < \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{1 + \sin \frac{\pi}{n}}$ も成立するから、 $S(r)$ を最小にする r は $\therefore r = \frac{2}{n+4}$ ……(答)